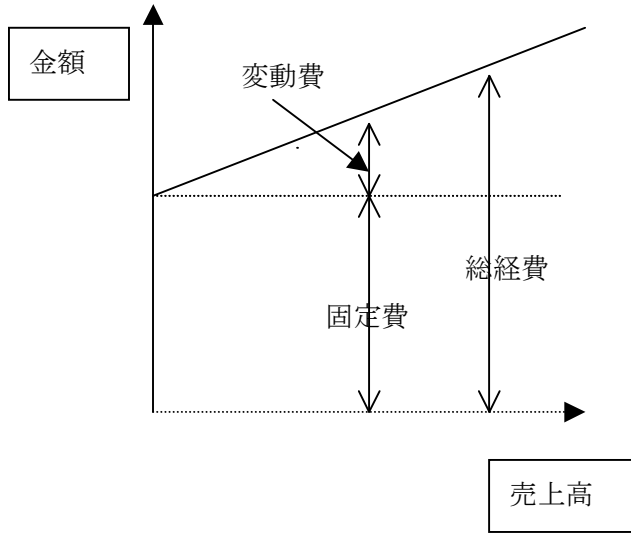
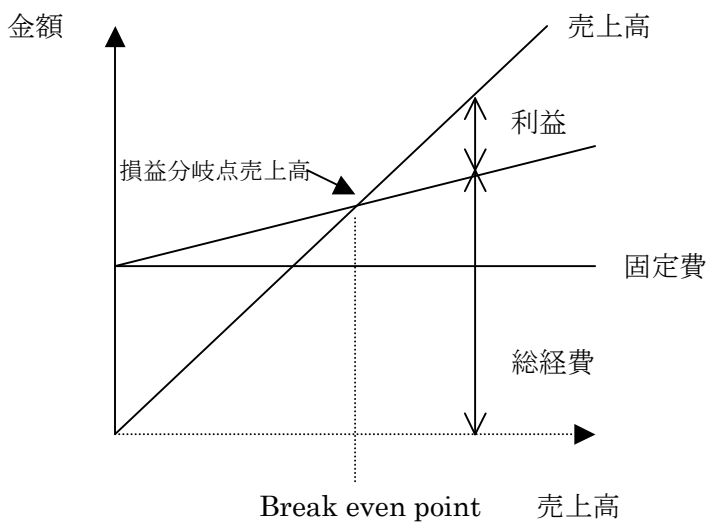


固定費と変動費



損益分岐点



損益分岐点分析

損益分岐点とは、損が出る売上高、赤字になってしまう売上高はいくらかを分析する手法

$$\text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} \div (1 - \text{変動比率})$$

実際の経営では、単純に計算はできない。というのも変動費と固定費を分解するのが非常に難しい。

経営計画を立てるにはまず損益分岐点を理解しないと始まらない。

建設業の場合、変動費は材料費、外注費の工事原価がおもなもの。固定費はそれ以外の一般管理費、支払利息などの費用

(例) 今期売上高	10億円
工事変動原価	8億円
一般管理費等固定費	1.8億円

$$1.8\text{億円} \div (1 - (8\text{億円} \div 10\text{億円})) = 9\text{億円}$$

9億円の売上で採算が合います。

9億円 ÷ 10億円 = 0.9 これを損益分岐点比率とよび、どれだけ売上が減っても利益が出るかがわかります。どれだけ売上が減少しても耐えられるか知っておくことが重要です。